

プロジェクト1

「写真を通して白石を見つめる」

①写真家 関口照生氏が白石を撮影します

撮影した作品で「白石の写真展」を開催予定。



◆関口照生氏
日本写真家協会(J.P.S)会員
東京生まれ/明治大学卒業
倉敷芸術科学大学客員教授

カレンダー・ポスター・コマーシャルなどの広告や雑誌・写真集の撮影を中心にフリーのフォトグラファーとして活動。様々な分野の審査員、政府の諮問委員なども務める。



▲11月に「こけしづくり」を撮影した様子

②市民参加型カメラワークショップ「関口照生写真塾」

関口照生氏による講義や、受講生が撮影した写真へのアドバイス、意見交換などを行います。

◆開催日・会場 12月10日(日)・専念寺
※募集は締め切りました

③フォトコンテスト開催

関口照生氏を審査員長に迎え、白石をテーマにした写真コンテストを開催します。

◆12月15日(金)から作品募集をスタート!
※詳細はホームページなどでお知らせします。
※入賞作品は、平成30年3月に写真展で展示予定。

プロジェクト2 「歴史を通して白石を見つめる」

戊辰戦争150年記念 歴史フォーラム

戊辰戦争から150年という節目に、元NHKアナウンサーの松平定知氏と大阪城天守閣館長の北川央氏を白石に迎え、戊辰戦争にまつわるエピソードを語っていただきます。

◆日時 12月16日(土)13:30~
◆会場 ホワイトキューブホール
※募集は締め切りました



松平 定知氏

北川 央氏

戊辰戦争から150年

しろいし慕心プロジェクト

◎生涯学習課 ☎22-1343 FAX 24-5377

慕心

慕心、明日へ。 しろいし

江戸時代、白石は仙台藩の南端に位置し、奥州街道や山中七ヶ宿街道が通る交通の要衝にあり、片倉小十郎が治める白石城は、藩の南境を守るため、軍事拠点としての機能も備えていた。

1868年(慶応4年)明治元年、大政奉還の翌年であるこの年に始まった戊辰戦争では、白石が歴史の表舞台へと登場し、この戦争を語るに欠かせない場所となるのです。

戊辰戦争勃発の後、奥羽越31藩からなる奥羽越列藩同盟が成立し、新政府に対抗します。そして、この同盟の中心機関である「軍議所(奥羽越公儀府)」が白石城に設置されました。同盟の中心となった白石城には、仙台藩・米沢藩など同盟に加わった諸藩の代表たちが集まり、軍事・政務を執り行いました。

当時、奥羽の行く末をかけた、大きな政局の舞台が白石城にあったのです。

そして、2018年。白石に奥羽の諸藩が集い、東北、白石のアイデンティティである「義」を貫いた戊辰戦争から150年を迎えます。

今、本市をはじめとした全国の地方都市は、経済発展、交流人口拡大のため、多くの観光客を全国・海外から呼び込もうとさまざまなPRが行われています。

本プロジェクトでは、白石市のこれからの市民とともに考え、市民が白石を愛し、まちをつくり、育て、動かす「シビックプライドの醸成」が大切なことではないかと考えます。

白石の大きな歴史を慕い、まちを慕う心を醸成し、白石市民の未来への推進力を育むため、ここに本プロジェクトをスタートします。